

予想をはるかに超える大地震が東北地方で発生しました。マグニチュード9・0という日本の歴史上記録のない規模で、阪神・淡路大震災では15秒間だった地震の揺れが、今回は5分間も続きました。東北地方では、過去500年のうちに数回の大津波の痕跡があるそうですが、今回の地震はまさに、「千年に一度の大地震」と言えます。

何よりも恐ろしかったのは、大津波でした。高さ10mのスーパージェット防壁を乗り越えて襲ってきました。

平和な人間の営みが一瞬のうちに地獄絵のように変わってしまいました。被災をされ、家族をはじめ大事な人を亡くし、物を失ってしまったかた

がたに、心よりお見舞い申し上げます。

鳥羽市におきましては、人命に関わるような被害はありませんでした。しかし、カキ、わかめ、のりなどの筏が数多く流されたり、壊されたりするなど、被害は甚大です。

市といたしまして、これらの被害、そして東北、関東地方への援助をしっかりとやっていきたいと思っております。

数多くの個人、団体のみなさんから援助したいという申し出もいただいております。大変ありがたいことと思っております。このコラム原稿の締め切りの関係もあり、コラムが出る頃には、どういった結果になっているかわかりませんが、福島の原発事故も大きな関心事で

す。何とか重大事にならないようにと祈っております。

この大地震が他の地震を誘発しないかという心配も、鳥羽市内を回って、各地で聞きました。予想されている東海地震などが誘発されれば、今回の大地震は「他人ごとではない」という声が多くありました。もし大津波がやってきたら、どこへ逃げようかと真剣に考えた人も多かったのではないのでしょうか。

わたしたちは、動くことのない大地に暮らしているわけではありません。地球の中心のほうは、ドロドロにとけたマグマであり、太平洋の底にあたるプレートは一週間に一ミリづつ西に向かって動いています。常に今回のような災害は繰り返されるといえます。人間の力は、自然の猛威の前には、所詮無力であるという印象も強くなりました。

しかし、同時に人間には、そのような事態に負けず、こつこつと盛り返していく力も備わっていると思えます。

日本人の能力、日本人の助け合いの精神を発揮する場面でもあります。みんなで負けずに頑張りましょう。

「130人の野球部員のうち、根っここの役割をしていてくれる人が見えていなければ、私は選手としては使えません。祝勝会などではレギュラーの選手たちに拍手を送られます。でも、彼らを支えてくれているのは他の110人の部員なんです。『雨の日もバッテリーングピッチャーを続け、ボールを拾った彼らがい

なかつたら花は咲かなかつたんです。彼らにも拍手をお願いします』と言ったら、レギュラー選手の2倍の拍手を送ってもらえました。祝勝会から帰ってから言いました。『君たちよりも、他の部員たちに贈られた拍手のほうが大きかったです。君たちは他の部員に支えられて優勝できたんだから、彼らを裏切るようなことはしては駄目だぞ。天狗になるなよ』と。」

「人生も細かいことができなければ何もできません。挨拶ができるか、好き嫌いなく食べられるか、ごみ拾いができるか。好き嫌いな、人生ではセツトメニューです。好きなことだけやっていけばいいというわけにはいかないし、セツトメニューを消化しないと栄養にはなりません。だから、守備練習が嫌いな選手には守備をたくさん与えます。そうして嫌いなことがだんだん友達になつてきたら、もう宝物です。」

この連載は「人権文化の花を咲かせよう」というタイトルですが、まさしく『すべては「根っこ」にある』のだと思います。

木田市長の

ど〜んと

真珠のように輝く
まちづくりのために

コミュニケーション

vol.65

千年に一度の大地震

人権文化の
花を咲かせよう

Vol.105